

# 山ねこ、おどわり

時間 **20分**  
 合計 80点...  
 100点

① 次の言葉の意味を後の( )から選んで、記号で書きましよう。

12点(12)

- ① みように( )    ② ねばっこい( )    ③ 大げさ( )

ア 物事をなかなかあきらめない。    イ やっかいて重要な様子。  
 ウ 実際より大変に見せかける様子。    エ 不思議に。  
 オ 見苦しい様子で。    カ ねばりが強い

② 次の文章を読んで、問題に答えましよう。

《130 ページ上12行～下14行》

「だって、あんたは、山ねこでしょ。」  
 「でも、この車のどこにも『山ねこ、おどわり』とは書いてなかったですよ。」  
 それは、まあ、そうだと松井さんは思いました。  
 「料金をはらえば、だれであろうと同じじゃありませんか。」  
 それもまあ、そうだと松井さんはまた、思いました。  
 「お願いしましよう。なにしろ、急いでいるんです。母が病気になったと、電報が来たのですよ。わたしは、医者なのです。といっても、まだ、医者になったばかりなのですがね。」  
 「送ってやろうかな、いや、送るべきだ」と松井さんは思いました。そして、ぱちぱちまばたきをして、自分の頭を、三度たたいてみました。それでも決心が変わらなかったのは、つきりうなずきました。

「いいです。お送りしましよう。」

【おまんきみ】「山ねこ おどわり」ちり

(1) 「それもまあ、そうだとありますが、松井さんはどんなことになつとくしたのですか。それが書かれている一文に、      線をつけましよう。

10点

(2) 「送ってやろうかな、いや、送るべきだ」とありますが、「送るべきだ」という言葉には、松井さんのどんな心のじょうたいが表されていますか。文章中から二字の言葉をぬき出しましよう。

10点

--

(3) 「いいです。お送りしましよう。」とありますが、松井さんがこいう言つたのは、なぜですか。次の( )に当てはまる言葉を考えて書きましよう。

15点

山ねこの言葉からことわる理由がないと思ひ、また、母が病気という話に

( ) から。

ホーム



3 次の文章を読んで、問題に答えましょう。

①32 ページ上8行下15行

やがて空色の車は、ほりばたの大きな病院の前に、ぴたっと止まりました。

メーターは、いつのまにか、三千八百五十円に上がっています。お金といっしょに、松井さんのてのひらには、はがきを半分にしたぐらいの紙がのせられました。

「これには、人には読めませんが、こう書いてあります。『山ねこ、おことわり』——これを、ドアにはつけてください。もうだいじょうぶですよ。」

先生は、広いかいだんを、すたすたとかけ上がっていきます。そのせなかを、ぼかんと見ていた松井さんは、急にまどを開けました。

顔をつき出して、よび止めました。

「や、や、やま。いや、ちよつと——」

「は。」

と、ふり返った山ねこ先生に、松井さんは、その小さな紙を、パリパリツとやぶってみせました。

そして、大声で言いました。

「また、いつでも、どうぞ。」

今度は、松井さんがかた目をつぶつて、にやつと笑いました。アクセルをふむと、車は、すべるように走りだしました。

あまんきむた「山ねこ、おことわり」よじ

(1) 「もうだいじょうぶですよ。」とありますが、何がだいじょうぶだと言っているのですか。 15点

( )

(2) 「先生」とは、だれのことですか。 10点

( )

(3) 「松井さんがかた目をつぶつて、にやつと笑いました。」とありますが、このときの松井さんの気持ちとしてよいものを次から一つ選んで、○をつけましょう。 8点

A ( ) 山ねこはいい人だし、ことわる理由はない。いつでも乗せてあげよう。

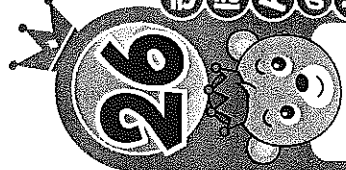
I ( ) 山ねこは何かたくらんでいるのかもしれない。だまされないぞ。

ウ ( ) 山ねこの本心を知りたい。もう一度乗せれば分かるかもしれない。

(4) 松井さんは、どんな人だと思えますか。考えて書きましょう。 20点

( )

正しい読み方! 早起きは三文の徳



こんきつね 季節の言葉 慣用句 秋

時間 20分 合かく80点... 100点

季節の言葉 秋

1 次の説明に合う言葉を後の... から選んで、記号を書きましよう。 9点(1つ3)

- ① 取り入れのすんだ後、落ちのこつている、いねなどの穂。( )
- ② 虫の鳴き声を楽しむために、秋の夕べ野山に出向くこと。( )
- ③ 野山に出かけて、紅葉を見て楽しむこと。( )

ア もみじがり イ 落ち穂 ウ 虫時雨 エ 虫聞き

2 次の俳句を読んで、後の問題に答えましよう。 18点(1つ3)

- ① 山彦の我れを呼ぶなり夕紅葉 白田 亞浪
- ② 稲刈つて畦は緑に十文字 高野 素十
- ③ 虫の声月よりこぼれ地に満ちぬ 富安 風生

(1) ①～③は、どれも秋の俳句です。季語(季節を表すためによみこむ言葉)は、どれですか。それぞれ—線を付けましよう。

(2) ①～③の句に当てはまる文を次から選んで、記号で答えましよう。

- ア 稲かりがすんだ田んぼは、あぜが十文字にくつきりで見えている。
- イ 夕方、すっかり紅葉した山に向かつてさげふと、山彦が返ってくる。
- ウ 辺りに満ちている虫の鳴き声は、月からこぼれ落ちてきたようだ。

- ① ( ) ② ( ) ③ ( )

慣用句

3 次の—線の漢字に読みがなを付けましよう。 12点(1つ3)

- ① 貯金 ② 老母 ③ 借りる ④ 姉さん

4 次の—線の慣用句の意味を後の... から選んで、記号を書きましよう。

- ① 優勝を前に心がおどる。( ) ② 町角で油を売る。( )
- ③ 二人はうり二つだ。( ) ④ 努力が実を結ぶ。( )

ア 仕事にむだ話をしてなまける。 イ うれしくてわくわくする。  
ウ 気が合う。 エ そっくりだ。 オ よい結果を生む。

49 重たいほど... 一を聞いて十を知る

5 次の文章を読んで、問題に答えましょう。

《 ① 15ページ8行～16ページ10行 》

やがて、白い着物を着たそうれつ  
の者たちがやって来るのが、ちらち  
ら見え始めました。話し声も近くな  
りました。そうれつは、墓地へ入っ  
てきました。人々が通ったあとには、  
ひがん花がふみ折られていました。

ごんは、のび上がって見ました。  
兵十が、白いかみしもを着けて、  
いはいをささげています。いつもは、  
赤いさつまいもみたいな元気のいい  
顔が、今日はなんだかしておれていま  
した。

「ははん、死んだのは、兵十の  
おつかあだ。」ごんは、そう思いなが  
ら頭を引っこめました。

そのばん、ごんは、あなの中で考  
えました。「兵十のおつかあは、と  
こについていて、うなぎが食べたい  
と言ったにちがない。それで、兵  
十が、はりきりあみを持ち出したん  
だ。ところが、わしがいたずらをし  
て、うなぎを取ってきてしまった。  
だから、兵十は、おつかあにうなぎ  
を食べさせることができなかつた。  
そのまま、おつかあは、死んじゃつ  
たにちがない。ああ、うなぎが食  
べたい、うなぎが食べたいと思いな  
がら死んだんだろう。ちよつ、あん  
ないたずらをしなけりやよかつた。」

【新美 南吉「ごんぎつね」より】

(1) 季節が分かる一文を、初めの段  
落から見つけて、~~~~線を付けま  
しょう。 9点

(2) ごんが「ははん、死んだのは、  
兵十のおつかあだ。」と思つたの  
は、兵十のどんな様子からですか。  
二つ書きましょう。 16点(二つ)

( )  
( )

(3) 「どこについて」とは、こゝでは  
どういう意味ですか。 8点

( )  
( )

(4) 「ちよつ、あんないたずらをし  
なけりやよかつた。」について、答  
えましょう。 16点(二つ)

① ごんは、どんなことをしたの  
ですか。

( )  
( )

② ごんの気持ちに当てはまるも  
のに、○を付けましょう。  
ア( )不安な気持ち。  
イ( )くやむ気持ち。  
ウ( )いかりの気持ち。